

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2018年11月12日
【四半期会計期間】	第20期第1四半期（自 2018年7月1日 至 2018年9月30日）
【会社名】	株式会社ボルテージ
【英訳名】	Voltage Incorporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 津谷 祐司
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号恵比寿ガーデンプレイスタワー
【電話番号】	03（5475）8193
【事務連絡者氏名】	経理本部長 古市 守
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号恵比寿ガーデンプレイスタワー
【電話番号】	03（5475）8193
【事務連絡者氏名】	経理本部長 古市 守
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

（注）当第1四半期連結会計期間より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第1四半期連結 累計期間	第20期 第1四半期連結 累計期間	第19期
会計期間	自2017年7月1日 至2017年9月30日	自2018年7月1日 至2018年9月30日	自2017年7月1日 至2018年6月30日
売上高 (千円)	1,866,538	1,827,016	7,391,523
経常損失 () (千円)	534,739	92,352	1,076,507
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 () (千円)	392,301	99,529	1,328,030
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	391,812	94,285	1,331,330
純資産額 (千円)	3,293,629	2,270,835	2,364,900
総資産額 (千円)	4,250,810	3,034,384	3,088,954
1株当たり四半期(当期)純損失金額 () (円)	76.83	19.37	259.79
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	77.5	74.8	76.6

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失金額であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1)財政状態の分析

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、3,034,384千円（前連結会計年度末比54,570千円減）となりました。

流動資産は、2,400,946千円（同40,214千円増）となりました。その主な要因は、オフィス返却に伴う敷金の返却等による未収入金の増加45,384千円によるものであります。

固定資産は、633,438千円（同94,785千円減）となりました。その主な要因は、オフィス返却に伴う敷金の減少62,322千円によるものであります。

(負債の部)

負債合計は、763,549千円（同39,494千円増）となりました。

流動負債は、763,549千円（同39,494千円増）となりました。その主な要因は、賞与引当金の増加58,421千円によるものであります。

(純資産の部)

純資産は、2,270,835千円（同94,065千円減）となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による利益剰余金の減少99,529千円によるものであります。

(2)経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかに回復する中で、企業収益は改善しました。また、個人消費は、消費者マインドが弱んでいるものの、実質総雇用者所得が緩やかに増加するなど、持ち直しております。

モバイルビジネスを取り巻く環境は、2017年における国内ゲームアプリの市場規模が、前年比9.2%増の1兆580億円となっております（注1）。

当社グループにおきましては、「日本語女性向け」「英語女性向け」「その他」の3区分で事業を運営していましたが、「その他」に含まれる「男性向け」の収益規模拡大、並びにIP展開を積極的に行う方針に合わせ、当第1四半期連結会計期間より「日本語女性向け」「英語女性向け」「男性向け」「IP展開」の4区分で事業を運営しております。

当第1四半期連結累計期間における売上は、「英語女性向け」「IP展開」が増加し、「男性向け」が大幅に増加したものの、「日本語女性向け」が大幅に減少し、1,827,016千円（前年同期比2.1%減）となりました。費用は、前年同期にテレビCMを出稿した反動により広告宣伝費が大幅に減少したほか、採用抑制に伴う人員減による労務費の大幅な減少や、配信停止タイトルの増加に伴う制作及びシステム外注費の減少により、全体として大幅に減少しました。その結果、営業損失は89,604千円（前年同期は営業損失523,834千円）、経常損失は92,352千円（同 経常損失534,739千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は99,529千円（同 親会社株主に帰属する四半期純損失392,301千円）となりました。

事業区分別の業績は、以下の通りであります。なお、当第1四半期連結会計期間より、事業区分を変更しておりますので、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後の事業区分に組み替えて比較しております。

事業区分別の主要なタイトル名、及びその略称は次の通りです。

事業区分	ターゲット・分類	主要タイトル	略称
日本語女性向け	カジュアル(注2)	100シーンの恋+ ダウト～嘘つきオトコは誰?～	100恋+ ダウト
	カジコア(注3)	天下統一恋の乱 Love Ballad 誓いのキスは突然に Love Ring 眠らぬ街のシンデレラ 鏡の中のプリンセス Love Palace 新 王子様のプロポーズ Eternal Kiss 魔界王子と魅惑のナイトメア	恋乱 誓い シンデ ミラブリ 王子 魔界
	コア(注4)	アニドルカラーズ	アニドル
英語女性向け		Love365: Find Your Story(注5) Lovestruck: Choose Your Romance(注6)	Love365 Lovestruck
男性向け		六本木サディスティックナイト	六本木
IP展開	イベント、グッズ、 映像・音楽	「恋乱」天下の宴、「ダウト」宝探し万博出展、「アニメ恋乱」CDリリースイベント	
	新技術	ポケカレAR、拳式VR	

日本語女性向け

日本語女性向けは、ターゲットを「カジュアル」「カジコア」「コア」に区分して展開しております。

「コア」が若干増加したものの、「カジュアル」「カジコア」が減少し、売上高は1,089,306千円(前年同期比20.8%減)となりました。

英語女性向け

英語女性向けは、「Love365」「Lovestruck」等が該当します。

主に「Lovestruck」が増加したことにより、売上高は461,425千円(前年同期比6.5%増)となりました。

男性向け

主に「六本木」が大幅に増加したことにより、売上高は263,981千円(前年同期比435.4%増)となりました。

IP展開

IP展開は、VR・AR技術を用いたコンテンツや、イベント、グッズ、映像・音楽などアプリ外の展開が該当します。

主にイベント・グッズが増加したことにより、売上高は12,302千円(前年同期比45.9%増)となりました。

- (注) 1. 出所: カドカワ株式会社「ファミ通ゲーム白書2018」2018年6月25日発行
2. カジュアル: 好きなゲームをライトに楽しむユーザー層。消費単価は月数千円。
3. カジコア: カジュアルとコアの間に位置するユーザー層。
4. コア: 好きなゲームに没頭・熱狂するユーザー層。ゲームだけでなくグッズやイベント熱も高い。
5. Love365 Find Your Story: 日本語版恋愛ドラマアプリを翻訳した海外市場向けコンテンツであり、1つのアプリ内で複数のタイトルが楽しめる「読み物アプリ」。
6. Lovestruck Choose Your Romance: SFスタジオ(米国サンフランシスコにある連結子会社)にて海外市場向けに制作した「読み物アプリ」。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,120,000
計	15,120,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2018年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2018年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,230,675	5,231,275	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 また、単元株式数は100株となっております。
計	5,230,675	5,231,275	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2018年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2018年7月1日～ 2018年9月30日	600	5,230,675	110	942,004	110	907,604

(注)1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 2018年10月1日から2018年10月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が600株、資本金及び資本準備金がそれぞれ110千円増加しております。

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2018年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2018年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 91,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,135,500	51,355	権利内容に限定のない標準となる株式
単元未満株式	普通株式 3,075	-	-
発行済株式総数	5,230,075	-	-
総株主の議決権	-	51,355	-

【自己株式等】

2018年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ボルテージ	東京都渋谷区恵比寿 四丁目20番3号	91,500		91,500	1.75
計	-	91,500		91,500	1.75

(注) 当第1四半期会計期間末現在の所有自己株式数は、91,581株となっております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2018年7月1日から2018年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2018年7月1日から2018年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,107,756	1,236,950
売掛金	1,016,501	1,015,107
前払費用	76,789	53,123
未収消費税等	109,099	-
その他	50,836	95,989
貸倒引当金	252	224
流動資産合計	2,360,731	2,400,946
固定資産		
有形固定資産	83,386	68,173
無形固定資産		
ソフトウェア	181,410	162,497
コンテンツ	3,656	3,322
無形固定資産合計	185,066	165,819
投資その他の資産	459,770	399,444
固定資産合計	728,223	633,438
資産合計	3,088,954	3,034,384
負債の部		
流動負債		
買掛金	100,073	75,349
未払金	3,384	864
未払費用	561,959	562,296
未払法人税等	8,482	5,328
賞与引当金	9,948	68,369
その他	40,205	51,341
流動負債合計	724,054	763,549
負債合計	724,054	763,549
純資産の部		
株主資本		
資本金	941,894	942,004
資本剰余金	907,494	907,604
利益剰余金	598,254	498,725
自己株式	100,222	100,222
株主資本合計	2,347,420	2,248,111
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	17,480	22,723
その他の包括利益累計額合計	17,480	22,723
純資産合計	2,364,900	2,270,835
負債純資産合計	3,088,954	3,034,384

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)
売上高	1,866,538	1,827,016
売上原価	908,272	688,631
売上総利益	958,265	1,138,385
販売費及び一般管理費	1,482,100	1,227,990
営業損失()	523,834	89,604
営業外収益		
受取利息	322	1,414
受取配当金	1	0
為替差益	-	7,818
雑収入	829	1,196
営業外収益合計	1,154	10,429
営業外費用		
為替差損	3,815	-
固定資産売却損	8,232	3,660
固定資産除却損	-	9,506
雑損失	10	10
営業外費用合計	12,058	13,177
経常損失()	534,739	92,352
特別損失		
減損損失	-	6,008
特別損失合計	-	6,008
税金等調整前四半期純損失()	534,739	98,360
法人税、住民税及び事業税	1,409	1,168
法人税等調整額	143,847	-
法人税等合計	142,438	1,168
四半期純損失()	392,301	99,529
親会社株主に帰属する四半期純損失()	392,301	99,529

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)
四半期純損失()	392,301	99,529
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	108	-
為替換算調整勘定	596	5,243
その他の包括利益合計	488	5,243
四半期包括利益	391,812	94,285
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	391,812	94,285

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)
減価償却費	69,733千円	38,707千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年9月28日 定時株主総会	普通株式	51,062	10.0	2017年6月30日	2017年9月29日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、モバイルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	76円83銭	19円37銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純損失金額()(千円)	392,301	99,529
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額()(千円)	392,301	99,529
普通株式の期中平均株式数(株)	5,106,193	5,138,794
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 事業年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2018年11月12日

株式会社ボルテージ

取締役会御中

P w C あらた有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岩尾 健太郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 穴戸 賢市 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ボルテージの2018年7月1日から2019年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2018年7月1日から2018年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2018年7月1日から2018年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ボルテージ及び連結子会社の2018年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。